

台湾・台南市北門区と

教育・産業交流の覚書を締結



覚書に署名した北門区公所の陳秀嬌・主任秘書(右から3人目)と渡部町長(左から2人目) 見届けた吉田さん(左から1人目)

台湾南部・台南市北門区と只見町は7月7日、台南市にある交通部観光署雲嘉南滨海国家風景区管理処にて覚書を交わしました。これは双方が教育・産業分野において協力関係を結ぶことで、国際的な視野を持ち、積極的に未来の発展を担う人材を共に育てることを目的にしています。互いの歴史や文化を取り入れ、小・中学校同士のオンラインや対面での交流、産業分野での取り組み等について連携協力していきます。

覚書締結式では北門区から特産のトビハゼを模した置物やマンゴーなどの果物が贈られました。只見町からは南会津地方の日本酒や泉太のどぶろく、ねっかの米焼酎などを贈りました。

台湾とのご縁

きっかけは映画

令和6年に公開された「青春18×2」は台湾と日本を舞台に描かれた日台合作映画です。物語では只見町がヒロイン・アミの故郷として登場しました。ロケ地として映画を盛り上げようと、町では「青春18×2」×「只見町」応援プロジェクト」と題し、ロケ地巡りマップの配布やフォトスポット、のぼりの設置などを実施してきました。

また、台湾の皆さまからは、日本で災害があった際にいち早く温かいご支援をお寄せいただきました。こうした中で、令和7年7月に発生した台風4号により、台湾中南部は甚大な被害を受けました。これまでの温かいお心遣いにお返ししたいと考え、只見町では救済金の振替口座を開設し、ご支援を呼びかけました。皆さまからお寄せいただいたご支援は、令和7年8月に全額を災害給付金として台南市に寄付しました。改めて御礼申し上げます。

吉田さんと台湾と只見町のつながり

只見町観光大使に任命された吉田瑠美さんは劇中の絵を担当しています。

そして、吉田さんの曾祖父は台南市北門区が故郷であり、令和8年1月に吉田さんと町が台南市を訪れたことが今回の覚書締結へと結びつきました。

また、北門区は海に育まれた「塩」が名産で観光の柱でもあります。只見町は「雪」が象徴のひとつです。どちらも共通する「白」。白がつなぐふたつの恵みが、交流のはじまりのしるしとして「飴」となりました。



「白のめぐみ」と名付けられた飴はヤマサ商店が作り、優しい味わいに仕上げました

只見駅舎にウォールペイント



最後に記念撮影。楽しい時間を過ごしました

令和7年7月に只見町観光大使に任命された画家・絵本作家の吉田瑠美さん。吉田さんと只見町との縁から始まり、広がった交流の輪を紹介します。



只見町観光大使 吉田瑠美さんがつないだ

6月24日から7月2日にかけて、吉田瑠美さんが只見駅舎にウォールペイントを行いました。会津塩沢駅、会津蒲生駅に続いて3か所目、町内にあるJR只見線の全ての駅舎に壁画を描きました。

初日は只見小の1年生から4年生と一緒に下地塗りを行いました。子どもたちは吉田さんに教えてもらいながら、夢中になって壁を塗りました。

みんなに愛される壁画に

今回は要害山から見えた只見の景色を描きました。

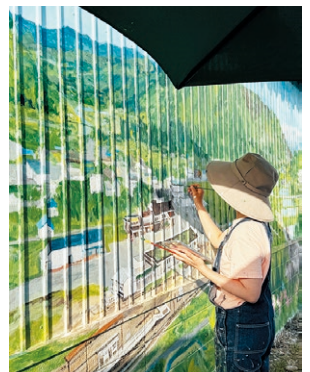
前日に実際に要害山に登って、山の中腹で見た景色を描いたラフスケッチや写真を参考にしました。「只見駅で降りた人がこの壁画を見て、要害山に登って只見の素晴らしい景色を楽しんでほしい」と吉田さん。

制作期間中には雨の日もありましたが、毎日、日が暮れるまで描き続けました。壁画を描く吉田さんのもとには多くの町民や一緒に塗った子どもたちが訪れ、笑顔で交流していました。映画をきっかけに只見線に乗って訪れた台湾からの観光客ともお話をしたそうです。

最終日には、町からの感謝の気持ちを込め、記念品を贈呈させていただきました。吉田さん曰く、壁画は8割5分の完成度。吉田さんが再度町を訪れた際に、只見線に手を振る町民の姿が描かれる予定です。



▲記念品贈呈後、吉田さんと副町長、町職員で記念撮影



▲晴れの日も雨の日も、1日中描き続けました